厚木ロータリークラブ週報

JAPAN　第2780地区　Atsugi Rotary Club Weekly

会長　山口巖雄
副会長　小林　透
幹事　会田義明
副幹事　常磐重雄
会報・IT　湯澤一孝

こころの中をみつめよう 博愛を広げるために

2011～2012　国際ロータリー会長　カルヤン・バネルジー

例会場　厚木商工会議所5F　大会議室
例会日　毎週火曜日　12：30～
事務所　厚木市栄町1丁目16番15号　厚木商工会議所内

http://www.atsugi-rotary.jp　メールアドレス info@atsugi-rotary.jp　TEL.046-222-5811　FAX.046-222-5821

第2482回例会（9月20日）☆司会　壽永純昭 SAA

点鐘　…山口巖雄 会長

斉唱　…我らの生業

ゲスト紹介

張　瑞さん（ロータリー米山記念奨学生）

会長報告

◎ガバナー事務所より

・アクターミーティングへのご出席のお願い

日　時：9月24日（土）13時00分～受付開始
13時30分点鐘～16時30分

場　所：横須賀市立綜合福祉会館

登録料：1,000円

幹事報告

◎週報

1. 厚木中ＲＣ

スマイル

黄金井康巳君

アサヒビール門田さんの後任で、田口さんが入会されました。田口さんの御活躍を祈念申し上げます。

壽永純昭君

秋の彼岸の入りの日です。今ごろは、「住職はロータリーの例会に行ってます」と本堂で妻と息子が檀家の話の種にしている事でしょう。ご先祖の墓参りをお忘れなくお願いします。

西迫　哲君

所用により早退いたします。

委員会報告

50周年記念誌委員会

編集作業に入るための原稿が若干未提出ですので事務局へ9月末日迄に提出して下さい。

①歴代会長メッセージ・在籍会員メッセージ　未提出者に連絡しますので控えをとって提出して下さい。

②記念誌を飾る写真、スナップの提供をお願いします。

●サイン塔除幕式
●タイ国消防車寄贈関連
●50周年記念例会のスナップ

こころの中を見つめよう　博愛を広げるために

今日のお祝い　「おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。」

＊事業所開設
黄金井一太君（10月1日）
黄金井康巳君（10月1日）
会田　明君（10月2日）
会田義明君（10月2日）

＊誕生日
山口巖雄君（9月28日）
鈴木茂男君（10月1日）

＊夫人誕生日
鈴木茂男君（智子夫人9月30日）

＊入会記念日
金澤文明君（H20.9.30）

今日の例会（2011年9月27日）

「NTTの東日本大震災への取組」
担当：湯澤一孝君

講師：篠崎敏男様（NTT東日本神奈川支店設備部災害対策室室長）

次回の例会（2011年10月4日）

「米山月間」
担当：米山奨学委員長

今日のお花

彼岸花（壽永純昭君）

卓話「イニシエーション・スピーチ（ロータリーと横浜銀行との繋がり）」

担当：平沼義幸君

○ロータリー自己紹介

横浜銀行の平沼でございます。本日は皆様の貴重な時間を頂戴して大変申し訳ありませんが、私の自己紹介と横浜銀行の歴史についてお話をさせて頂きます。

私は現在、海老名市の河原口に住んでおります。妻と大学生の長女、高校生の長男の４人家族で、実家も同じく海老名市の国分にあります。趣味というほどのものはありませんが、休日は本を読むか、自転車に乗っていることが多いのでこれが趣味と言えるかもしれません。ゴルフは仕事柄やりますけれども、何とか 100 を切ればラッキーというレベルで、今までの支店長方に比べると下手くそだと思います。

生まれは横浜でございまして、昭和 35 年、中区小港という所で生まれました。皆様もご存知の山下公園やマリンタワーのある山下町の隣町になります。当時の横浜は、今のような埋め立てが為されておらず、近隣の三渓園 (当行の初代頭取原富太郎の残した庭園）の周りは現在は根岸コンビナートとなっておりますが、沖を小船がゆっくりと漂い、海苔の養殖などが行われていたのどかな地域でありました。当然ベイブリッジも首都高速もありませんので、今とは随分と違う風景でありました。

小学校の４年の時に厚木市の緑ヶ丘に越してまいりまして緑ヶ丘小学校、南毛利中学校、厚木高校と進学を致しましたが、高校の一年の時に静岡に単身赴任をしていた父親が赴任先で体調を崩して看病が必要となったため、家族共々静岡県に移住することとなりました。せっかく入った厚木高校でしたが、残念ながら静岡高校の編入試験を受けて静岡高校に転校することとなりました。この転校はかなり大変で、どちらの高校も進学校ではありましたが、カリキュラムが違うため同じ箇所を２回教わったり、抜け落ちてしまった項目があったりと結構大変な思いを致しました。その後横浜国立大学に入ってまた横浜に戻りました。大学時代はあまり勉強はせずスポーツとアルバイトが中心の生活を送り、先輩の誘いに乗って大した考えなく横浜銀行に入行いたしました。

晴れて銀行員となったわけでありますが、私の場合は高い志を持って当行に入行したわけではなく、ただ何となく就職してしまったものですから、例えば簿記とかそろばんと言う当時の銀行に必要な素養は全く持っておりませんで、入ってから大変な目に

遭うことなりました。当時は銀行に入るとまず精神修養のために禅寺(鶴見の総持寺）に４日間ほど放り込まれます。朝は５時に起床し掃除、座禅、掃除、勤行とそれまでの生活とは１８０度違う生活を送り、当然酒もタバコも肉食も禁止です。これはえらい所に入ってしまったなと嫌な予感がしました。続いて集合宿泊研修というものがありまして、ビジネスマナーとか札勘定とかそろばんなどをやらされるわけですが、これが結構きつくて、例えば百万円の束を一分以内に数えられないと食事抜きとか、そろばんで一定時間内内に全問正解するまで寝てはいけないとか、言わばイジメのような研修で、毎日、逃げ出したい気持ちを抑えながらの日々でありました。

この研修を何とか終えて座間支店に配属になりましたが、こんどは支店には怖いお姉さま方が沢山おりまして、仕事で失敗をするとと札束を投げられたり、引っぱたかれたりいたしまして、いまでは感謝をしておりますが、当時は「もう辞めたい」と思ったことが何度もありましたが、何とか踏みとどまって５年間の下積みを終えることができました。このような下積みの経験が生きたのかもしれませんが、その後は支店一筋に転勤を重ねまして、市ヶ谷支店、三田支店、組合専従のため２年間銀行を休職致しまして、茅ヶ崎支店、横浜駅前支店の副支店長を勤め、その後は三ツ境支店、瀬谷支店、溝口支店、秦野支店、小田原支店、相模原駅前支店の支店長を勤めて、現在は厚木支店をお預かりしております。

さて、私事ばかりでは皆様のご興味も湧かないと思いますので、手前どもの横浜銀行について若干のお話をさせていただきます。先般、浜銀総研が厚木地区の金融機関についてのお話をさせていただき、若干被る部分もありますがお許し頂きたいと思います。

ここ１０年程の金融機関の統廃合は実に目まぐるしいものがあります。現在、メガバンクと言われている金融グループは三井住友、みずほ、三菱 UFJ の三つ、これにりそな HD を加えたグループが旧都銀、興長銀の現在の姿ですが、以前はどんな銀行名だったか覚えていらっしゃいますでしょうか？

・三井住友 FG … 住友(住友、平和相互)、さくら(三井、太陽神戸)
・みずほ FG …… 第一勧業、富士、日本興行、安田信託
・三菱 UFJ …… 三菱、三和、東海、東京、三菱信託、日本信託
・りそな HD …… 大和、あさひ(協和、埼玉)、近畿大阪

と目まぐるしく変わっておりますが、実は横浜銀行も合併によって作られた銀行であります。

横浜銀行の前身は大正９年に設立された横浜興信銀行でありますが、そのルーツは第二国立銀行(明治７年横浜為替会社改組)、第七十四国立銀行(明治１１年設立）まで遡ります。当時の銀行は地域の有力者が認可を受けて設立する形態でありました。従って各地に数多くの銀行がありまして、明治末期の神奈川県には特殊銀行２行(横浜正金銀行、神奈川農工銀行)、普通銀行２４行、貯蓄銀行３６行と実に６２もの銀行が存在しておりました。ご当地にも明治２３年に設立させた厚木会社を引き継いだ厚木銀行が存在しており、この銀行はその後、相模実業銀行、鎌倉銀行厚木支店と姿を代え、現在の横浜銀行厚木支店の基となっております。厚木会社の設立は明治２３年(１８９０年）でありますので、そこから勘定しますと現在の厚木支店は約１２１年もの歴史を持っているとも言えます。これだけ長きに渡り地元で営業をさせて頂いておりますことを、高い席からではございますが、改めて深く御礼を申し上げます。また、ご当地厚木には、八王子の本店を構える第七十八銀行、後に鎌倉銀行と合併した瀬谷銀行も支店を構えておりまして、時の経済の重要な位置を占めておりました。

さて、話を戻しますが、当時の銀行は地元の有力者が中心となって作られたものでありますから、自ずと機関銀行化、いわゆる銀行の私物化に陥りやすい性格を持っておりました。前述の第七十四国立銀行も同様でありまして、民間に払い下げられた後、当時生糸商として大きな力を持っていた三代目茂木惣兵衛の商社である茂木合名会社の機関銀行となっておりました。大正３年（１９１４年）に第一次世界大戦が勃発致しまして、日本の経済は一時的に混乱を来たしたものの、その後は大変な好景気となえいました。この好況は約５年間続き、株価や生糸の値段は大幅な高騰を続けておりましたが、大正９年にはその反動が出まして株式市場が大暴落を致しました。同時に商品相場も大打撃を受け、大正金融恐慌と呼ばれるように、全国で２１行もの銀行が休業に追い込まれる騒ぎに発展をしていくことになりました。茂木合名会社の機関銀行となっていた七十四銀行と関連会社の横浜貯蓄銀行でありました。当時の七十四銀行は預金量が６千万円、貸し出し量は７千２百万円でありました。ちなみに大正８年当時全国にはおよそ 1,340 もの銀行がありましたけれども、預金量が５千万円を超える銀行は２３行しかなかったとのことですから、相当規模の銀行が破綻したことになります。横浜の経済は大混乱となり、

特に５万５千口座にも上る預金者と約４００の債権者に対する対応が大きな問題となりました。この七十四銀行の破綻整理にのために大正９年に官民の協力で設立された銀行が、当行の前身である横浜興信銀行であり、初代頭取は第二銀行頭取であった原富太郎（原三渓）、副頭取が横浜火災保険社長であった井坂孝でありました。

明治末期に６２あった神奈川県の銀行は整理統合が進み大正末期には休業中のものを含め約４０まで減少しておりましたが、昭和の初期にさらに合併が加速いたしまして、横浜興信銀行は左右田銀行、第二銀行、横浜貿易銀行、元町銀行と相次いで合併をして、横浜の中心的な銀行となり、昭和７年には関東興信銀行を合併して、営業エリアを三浦地区、湘南地区へと拡げて参りました。

その後の転機は太平洋戦争中の昭和１６年に訪れました。戦時統制下の方針により一県一行主義が推進され、当時の神奈川県下の銀行のうち、横浜興信銀行、鎌倉銀行、秦野銀行、相模銀行、平塚江陽銀行、足柄農商銀行、明和銀行が合同し現在の横浜銀行の形が出来上がりました。以来、当行は神奈川県地盤の銀行としての形を整えたわけですが、昭和２０年上期の預金残高は１６億円ほどで、他の地方銀行よりも少なく、例えば神戸銀行（２９億）、静岡銀行（２６億）、埼玉銀行（２０億）、北陸銀行（１７億）であり、現在は地方銀行トップ級となっておりますのも、この神奈川県の発展がその基礎にあるものと感謝をしております。その後昭和３１年に現在の横浜銀行へ行名を改名し、昭和３４年には株式を東京市場で店頭公開致しまして現在に至っております。

最後に横浜興信銀行の初代副頭取、第二代頭取でありました井坂孝氏について触れさせて頂きます。この方は東京ガスの社長等数多くの要職に就かれておりますが、米山梅吉翁後を継ぎ、日本ロータリーの第二代ガバナーも勤めておりました。現在横浜銀行の支店長も各地のロータリーに引き続きお世話になっておりますのもこのような歴史があるからこそと感謝をしておりますが、井坂ガバナーはガバナー月信の中で、次の三点を言っておられたそうです。第一は「ロータリアンよ、約束を守れ」第二は「ロータリアンよ、賄賂を贈ることなかれ」第三は「ロータリアンよ、徒に慈善事業に身をやつすことなかれ」だそうです。私はまだまだ未熟でこれらの背景、本質を理解しておりませんが、厚木ロータリークラブにお世話になり、また初心に戻って精進を重ねていきたいと思っておりますので、引き続きのご指導のほどお願い申し上げます。ご清聴ありがとうございました。

（了）

新会員紹介

氏名（たぐち しゅうすけ）	田口　周介		
生年月日	昭和 41 年 4 月 19 日　（45 歳）		
事業所住所	〒 221 － 0056　横浜市神奈川区金港町 1-4 横浜イーストビル 9F		
推薦者	黄金井康巳		
勤務先	アサヒビール株式会社	職業分類	ビール配布
所属委員会	クラブ会報・IT		

出席報告　〈会員 39 名、出席対象 36 名〉

9 月 6 日例会　　確定出席率 91.43％	9 月 20 日例会　　出席 35 名　欠席 2 名　出席率 97.22％
	＜欠席者＞ 西迫一郎君 ＜事前メイク＞ 黄金井康巳君（9 月 14 日　伊勢原 RC）